

2018 年 11 月 6 日 D グループ 中村 玲大

山家悠紀夫『景気とは何だろうか』岩波新書 2005 年

序章 危うくなった景気回復

問題提起

景気回復の構造変化？ p13

「今回の景気回復は 2002 年の初めに始まった、とされている。既に 3 年近くが経とうとしている。にもかかわらず、中小企業、家計(個人)という、数の上では圧倒的多数を占める部分が回復から取り残されている。」(p14L1)とあるが、なぜ、このように取り残される状況に陥ってしまい、格差拡大につながる具体的要因はなにか？

選んだ理由

大企業や非製造業は良くなるのに対して、家計部門にまでは景気回復は全くというほど生じてないのはなぜか疑問に思ったから。

B グループ

日本経済を動かす大企業のみが景気回復してしまい全体の統計として見ると景気が回復しているように見えるために中小企業などに対する対策が疎かになっているのではないかと。

C グループ

日本経済全体として見ると、景気は回復しているが中身を見てみると、回復しているのは大企業と製造業で、圧倒的大多數を占める中小企業と非製造業の状況はなお悪化を続けている為、格差が拡大してしまっている。

A グループ

景気に影響を及ぼすのは主に大企業であり、労働格差のある中小企業や多くの家計と大きな差が生じるような日本経済の構造に問題がある。

D グループ

バブル崩壊以降の影響に対する不安が高まり、中小企業は競争が激しくなったことで経営が厳しくなり、また企業全体で賃金を上げることへの影響が出た。

コメント:

討論は B グループの意見をめぐって行なわれた。

格差拡大の問題では、「家計」を重視する著書なので、見落とさないようにする必要がある。